

オオブタクサ

-大豆畑への侵入が危惧される雑草-

同定のカギ
・葉がクワの葉に似る。
・高さ3～6mの大型草種



形態・特徴

北米原産の帰化植物。高さ3～6mにもなる。茎も葉もざらつく。葉は対生で、葉柄は長く、葉身は20～30cmとなる。葉身は掌状に3～5裂し、クワの葉に似る。

花は雌雄別につく。雄頭花は枝先に青く長い花穂となり、黄色の筒状花からなる。その基部に単生または塊状に雌頭花がつく。

果実は硬化した総ほうに包まれた偽果で、倒卵形で長さ5～10mm、中央に2～4mmの先が尖った嘴状の突起が1個、そのまわりに4～8個の嘴状の突起があり、王冠のような形である。種子生産量は5000個/株以上という報告がある。

発生生態

全国各地で分布が確認されている。

種子で繁殖する。土中の種子寿命は21年にも及ぶ。

出芽深度は、2～16cm。春からだらだら発生する。成長が速く他の作物や雑草を競合で抑圧する。7月中旬より開花・結実する。

種子散布様式は不明だが、アレチウリと同様に水系で拡散しているようである。

雑草害

主に河川敷などでまん延している。肥沃で湿った場所を好む。

密生すると95%の光を遮る。飼料用トウモロコシ畑では初期生育で完全に抑圧され、収穫不能になるケースがある。大豆畑への侵入事例はまだ多くないが、生育速度の速さから初期の競合が深刻になると考えられる。



オオブタクサ

Ambrosia trifida



2012.6.11

トウモロコシ畑に一面に発生



2012.7.5

すでに2mを超えるオオブタクサ

防除のポイント

水系で種子が移動し拡散している可能性が高い。水田輪作地帯では地域全体に急速に拡散することが懸念される。少数でも見つけたらすぐに防除し、地域全体へのまん延を防ぐ必要がある。

花期が7月中旬以降であることから、それ以降種子を付けさせないことが重要。

トウモロコシではアトラジン、トプラメゾンの効果が高い。大豆作では効果が期待できる土壌処理剤や選択性の茎葉処理除草剤はほとんどない。

写真：上から、「出穂期」、「芽生えと幼植物」、「被害トウモロコシ畑」。

Ver.1.

お問い合わせ
農研機構
植物防疫研究部門
雑草防除研究領域
029-838-8421 (広報)



地域でのまん延を防止するためのポイント

★侵入・拡散の防止

オオブタクサの種子は輸入飼料に混入して日本に侵入すると考えられる。畜産堆肥からの侵入を防止するため、発酵熱が60℃以上に達した完熟堆肥を使用する。

また、ほ場周辺が種子源となっていることが多いため、ほ場周辺の防除を徹底する。

農業機械での拡散を防ぐため、侵入していないほ場から発生程度の小さい順に作業を行う。

★侵入初期の防除

ほ場で一旦まん延すると防除が困難である。侵入初期の段階で手取り除草により徹底防除する。

★河川敷に隣接するほ場は要注意

大きな川の河川敷にまん延している場合が多くそこから侵入してくるので特に注意する。

★まん延ほ場では埋土種子を減らす方向での対策を

オオブタクサは7月中旬以降に結実するため、大豆などの実取り用の作物で手取り除草が困難なまん延圃場では、種子生産を防ぐことは難しい。多回刈りする牧草などに転換するなど、種子を生産させずに埋土種子をできるだけ減らす対策が必要である。ただし、水稻へ戻すと水系で他のほ場へ拡散させる危険性がある。水稻に戻す場合には他のほ場への拡散がないか地域全体でのモニタリングが必要である。

有効な防除体系

日本での大豆畑での発生事例が少なく、今のところ有効な防除体系の情報はない。

有効な防除ツール

機械的・耕種的・化学的防除のいずれにおいても情報が少なく、効果は不明である。化学的防除に関しては米国での情報が得られている。

大豆作で有効とされる除草剤の使用基準

| 除草剤 | 薬量 | 処理方法・時期 |
|----------------|---------------|--|
| イマザモックスアンモニウム塩 | 200-300mL/10a | 出芽直前～出芽揃の茎葉兼土壌処理 生育期、収穫30日前までの畦間処理 (北海道のみ) |
| グリホサートカリウム塩液剤 | 200-500mL/10a | 畦間処理、収穫前日まで |
| グルホシネート液剤 | 300-500mL/10a | 畦間・株間処理、収穫28日前まで |

※上記の情報はアメリカなどでの文献情報に基づくものです。その効果については検討が必要な場合があります。

※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

※本パンフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発」および農研機構研究課題「生物情報に基づく帰化雑草の侵入・まん延警戒システムと長期的雑草管理法の構築」の成果に基づいて作成されました。